

# キウス周堤墓群を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録

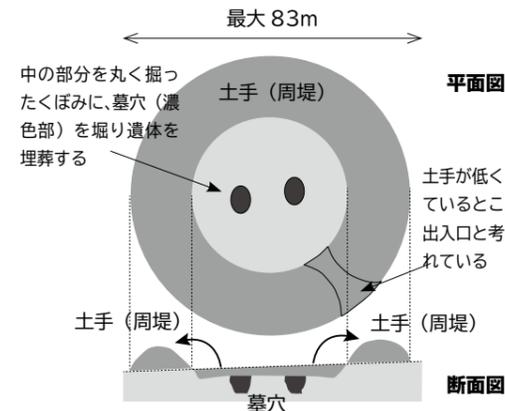
令和3（2021）年7月27日、キウス周堤墓群を含む《北海道・北東北の縄文遺跡群》が世界文化遺産に登録されました。名実ともに世界中のみんなで未来へ引き継いでいくべき宝となりました。私たち市民は、世界遺産のあるまちとして、その喜びを分かち合うと同時に、今後、その宝をどう守っていくのか、後世にどう伝えていくのかを考えていかなければなりません。本特集では、キウス周堤墓群の歴史や関係者の声を紹介しています。市民みんなで千歳の宝について考えましょう。

詳細：千歳市埋蔵文化財センター  
☎（24）4210 FAX（21）9301

## 周堤墓とは

周堤墓は、縄文時代の集団墓地、現代の霊園のような場所です。円形に掘ったくぼみの周りに土手（周堤）を積み上げたもので、ドーナツのような形をしています（左図）。周堤で囲まれた区画の中に複数の墓穴を掘り、遺体を埋葬していたことから《周堤墓》と名付けられています。

周堤墓は縄文時代後期の一時期（約3200年前）にのみ造られたものです。北海道固有のもとも珍しい遺跡で、特に千歳から数多く見つかっています。キウス周堤墓群は、9基の周堤墓を含む約11ヘクタールが国の史跡に指定され、《北海道・北東北の縄文遺跡群》の構成資産の一つとして世界文化遺産に登録されました。



## 世界遺産とは

1972年にユネスコ総会で採択された《世界遺産条約》にもとづき世界遺産委員会が定める歴史的に貴重な遺産を《世界遺産》とします。それらは「顕著で普遍的な価値（人種や世代、信仰や価値観を問わず、誰もが素晴らしいと感じる価値）」をもつ

ことが条件で、「文化遺産」「自然遺産」その両方をもつ「複合遺産」に分けられます。《世界遺産条約》は、この人類全体のための遺産を、損傷や破壊などの脅威から守り、国際的な協力や援助の体制を確立することを目的としています。

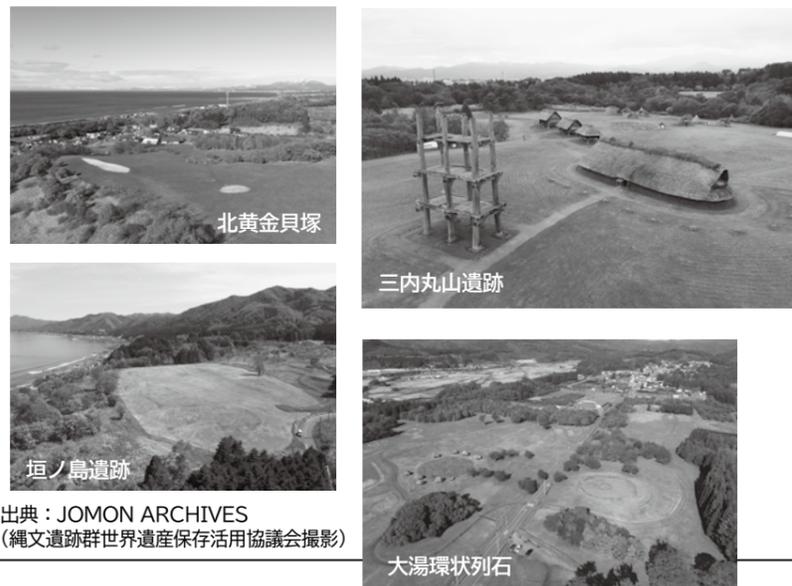


キウス周堤墓群 写真提供：吉田 裕吏洋氏

### キウス周堤墓群の魅力と特徴

- ◎ 50m を超える大きな周堤墓が集まり、連結している
- ◎ 現在まで埋まりきっていない本物の状況を見ることができ、縄文時代の墓地の景観に思いを馳せることができる

### キウス周堤墓群以外のおもな構成資産



出典：JOMON ARCHIVES  
(縄文遺跡群世界遺産保存活用協議会撮影)

## 北海道・北東北の縄文遺跡群の「顕著で普遍的な価値」

1万年以上の長年にわたり採集・漁労・狩猟による定住生活の開始、発展、成熟の過程や、農耕文化以前における人類の生活の移り変わりや精緻で複雑な精神文化を示す世界的にもまれな遺跡群

### 価値を示す4つの特徴

- ① 自然資源をうまく利用した生活のあり方を示すこと**  
→ 森林資源・水産資源を持続的に管理・利用することで、1万年以上の長期間にわたり採集・漁労・狩猟による定住が営まれたことを示す
- ② 祭祀・儀礼を通じた精緻で複雑な精神性を示すこと**  
→ 墓や貝塚・盛土、土偶など祖先や自然を敬うところ、豊穡への祈りなど、人々の精神文化を示す
- ③ 集落の立地と生業との関係が多様であること**  
→ 人々が食料を安定的に確保するため、山地、丘陵、内湾や湖沼の沿岸、河川の付近などに集落をつくり、その環境に応じて技術や道具を発達させてきたことを示す
- ④ 集落形態の変遷を示すこと**  
→ 1万年以上継続した生活の中で、気候変動・火山噴火などの環境変化や社会の在り方を通じて、人々が集落のかたちを変えてきたことを示す

### シリアル・ノミネーション

姫路城や原爆ドームのように1つの資産が世界遺産になるのではなく、北海道・北東北の縄文遺跡群は17の構成資産の複合体として世界遺産に登録（シリアル・ノミネーション）されました。キウス周堤墓群は、北海道・北東北の縄文遺跡群の「顕著で普遍的な価値」を説明するうえで欠かせない役割を果たしています。

旧石器時代	
約1万5000年前	草創期 大平山元遺跡（青森県）
約1万1000年前	早期 垣ノ島遺跡（函館市）
約7000年前	前期 北黄金貝塚（伊達市） 田小屋野貝塚（青森県） 二ツ森貝塚（青森県）
約5000年前	中期 三内丸山遺跡（青森県） 大船遺跡（函館市） 御所野遺跡（岩手県）
約4000年前	後期 入江貝塚（洞爺湖町） 小牧野遺跡（青森県） 伊勢堂岱遺跡（秋田県） 大湯環状列石（秋田県）
約3000年前	晩期 <b>キウス周堤墓群（千歳市）</b> 大森勝山遺跡（青森県） 高砂貝塚（洞爺湖町） 亀ヶ岡石器時代遺跡（青森県） 是川石器時代遺跡（青森県）
約2300年前	弥生時代

# キウス周堤墓群の価値と保存・活用

ここでは、キウス周堤墓群の価値や今後の保存・活用などについて  
《史蹟キウス周堤墓群整備基本計画検討委員会》の委員であり、北海道大学で考古学の研究をしている  
小杉氏と《キウス周堤墓群を守り活かす会》の会長である大江氏に話を聞きました。

## キウスの価値や魅力は？

縄文遺跡の多くは、地面の下にあるので、現地表で見る  
ことができませんが、キウス周堤墓群はその大きき故に構築時の外観を現地表面からうかがい知ることが出来る稀有な遺跡です。

1万年以上続く縄文文化において、最初から集団墓があったわけではありません。社会が複雑化する中で、縄文後期に《キウス周堤墓群》のようなモノユメント（大規模記念物）が造られるようになりました。世代を重ねた定住生活の中で《祖先》という観念（祖先観）が生まれたのではないかと考えられています。

## 遺跡の保存・活用とは？

《古いモノが土の中に埋まっている＝遺跡》ではなく、現代の私たちが、その価値に気づき、研究や保存・活用しようとする意識が生まれて、はじめて「遺跡が姿を現す」のです。その意味で、遺跡とは「創りあげていくもの」ですから、調査や整備などは、考古学の専門家だけでなく、市民の方も関わるのが大切です。自分たちの住んでいる地域に世界遺産になるほどの遺跡があるという自覚と、それに自分たちが関わることで価値が保たれるという認識を持つことが保存・活用の本当の在り方です。遺跡は意識して保護しようと思わなければ、開発の中でなくなってしまうのです。

## 今後の期待と課題は？

縄文の遺跡は単独ではなく、《周辺とのつながり》のなかで存在しています。今後は、世界遺産に認定された指定範囲だけでなくその周辺を含めた計画的・継続的な調査が必要です。また、遺跡の付近に住む方だけでなく千歳全体、もつといえは市域を越えて、みんなで遺跡を育てていくという感覚を持つことが遺跡の価値を高めていくことにつながります。

## 「遺跡の整備・保存は未来へのメッセージ」



史蹟キウス周堤墓群整備基本計画検討委員会 委員  
北海道大学大学院  
文学研究院 教授  
小杉 康さん  
Kosugi Yasushi

キウス周堤墓群は、縄文人がメッセージを込めて残したモノユメントです。適切に保存し、後世に価値を伝えていくため、千歳市は、今年度、《史蹟キウス周堤墓群整備基本計画》を策定する予定です。遺跡を整備・保存するということは、現代に生きる私たちが新たなモノユメントを創ることに等しい活動です。そこに、私たちがどのようなメッセージを込め、整備・保存していくか、市民の皆さんの関わりが求められているのではないのでしょうか。

## 「若い世代の方にもっと知ってほしい」



大江 晃己さん/80歳  
Oe Koki / 東郊在住

キウス周堤墓群を守り活かす会 会長



## キウス周堤墓群を守り活かす会

平成26年に《国指定史蹟キウス周堤墓群》をはじめとする市内遺跡に関する会員相互の学習、市民への学習機会の提供、情報発信などを通して、文化的な千歳のまちづくりに寄与することを目的に設立

私たちの会は、キウス周堤墓群を含めた市内の遺跡について、皆さんに親しみを感じていただくため、講演会や子ども教室などの活動を続けてきました。  
今年の6月からは、キウス周堤墓群のボランティアガイドをはじめました。7月27日の世界文化遺産への登録が決まった後、多くの見学者が来

ています。「縄文文化に興味がある」、「世界遺産となる遺跡を見てみたい」、「友人に誘われた」など見学の動機はさまざまです。どのような方であっても、ガイド一同、真心を込めてご案内しますので、ぜひ見学に来ていただければと思います。  
また、海外や国内のほかの地域では小・中学生がガイド

をしている遺産があると聞いています。今後も、キウスの価値を伝え続けていくためには、若い世代に知ってもらうことが大切になります。千歳でも将来、学生など若い世代のガイドが誕生することを願いながら、今後も活動を続けていきたいと思います。

## キウス周堤墓群だけじゃない遺跡のまち、千歳

千歳には、豊かな自然とともに数多くの文化財が残されています。特に埋蔵文化財は豊富で、後期旧石器文化、縄文文化、続縄文文化、擦文文化、アイヌ文化に属する遺跡の数は約300か所確認されています（令和2年3月時点）。

### 国指定史跡 ウサクマイ遺跡群



ウサクマイ遺跡群は、千歳川と内別川に挟まれた台地上に所在する縄文時代早期から晩期、続縄文時代、擦文文化期に属する集落跡や土坑墓群です。土師器、蕨手刀など古代東北地方との交流を物語る資料も出土しています。それぞれの時代におけるこの地域の人々の活動を示す重要な遺跡群です。

### 公園の下に眠る周堤墓 末広遺跡



芝生の広場や遊具があり、1年を通して多くの方が利用している《遺跡公園》の下には、周堤墓が埋もれています。ここは《末広遺跡》と呼ばれる遺跡で、縄文時代からアイヌ文化期まで連続と続いた生活の痕跡が積み重なっている場所です。清流地区の宅地開発を行う際に整備した公園で、埋蔵文化財を保全し、未来に残すため、当時の地形をできるだけ残し、土中に保存する形で公園を整備しました。



写真上：ママチ遺跡から出土した土面。縦横18cmの大型の土面で顔の造作は写実的。／写真右：美々4遺跡から出土した動物形土製品。全長31.5cm。ともに縄文時代晩期の祭祀、呪術的な精神生活を表す貴重な遺品。

Timeline

紀元前 約1200年

キウス周堤墓群が造られる

1890年 周堤墓を通る由仁街道（現国道337号）が竣工

1901年 河野常吉による聞き取り調査

1917年 河野常吉による現地調査、阿部正己による発掘調査、松坂修吾による測量調査

1930年 《史蹟キウスノチャシ》として1号～5号周堤墓が史蹟天然記念物保存法にもつぎ北海道庁より仮指定される

1964年 大場利夫・石川徹による1号周堤墓の調査（5基の墓穴を確認）

1965年 大場利夫・石川徹による2号周堤墓の調査（1基の墓穴を確認、周堤の断面を記録）、4号周堤墓外縁部の墓穴の発見・調査（石棒出土）

1968年 大場らの調査結果をもとに《千歳キウス環状土籠群》として、1号6号周堤墓が北海道文化財（史蹟）に指定される

1978年 千歳市教育委員会と奈良国立文化財研究所による共同測量調査（11号・12号周堤墓を発見）

1979年 《キウス周堤墓群》として、1号6・11・12号周堤墓の範囲が国史蹟に指定される

2012年 世界遺産暫定一覧表記載の《北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群》に構成資産の一つとして追加登録される

2013年 史蹟周辺の詳細分布調査（14号周堤墓を発見）と地形測量調査

2017年 14号周堤墓を含めた範囲が国史蹟に追加指定される

2020年 《北海道・北東北の縄文遺跡群》の一つとして世界文化遺産登録の推薦書が国（文化庁）からユネスコへ提出される

2021年 7月27日、世界文化遺産に登録

7

広報ちとせ 令和3(2021)年9月号



## 「この場所は大切にしてください」と 代々伝えられてきました

**明**治27年にキウスの森に入植し、現在まで林業を営んでいる鈴木家。4代目の鈴木 昭廣さんは、家業を継ぎながらキウス周堤墓群の草刈りや倒木処理を行い、遺跡を保護してきました。

「子どもの頃から、おじいさんやおふくろに『チャシは大切にしないといけない場所だよ』と伝えられてきました。私が小学生のころは周堤墓ではなく、『チャシ』と呼んでいました。いまみたいに明文化して守ろうという特別な意識はありませんでしたが、生活の一部として当たり前を守るべき場所でした」と語る鈴木さん。

「これまでキウスが開発を免れてきたのは、研究者や地域の皆さんが大切なものと価値を見だし、貴重な文化財として保護してきたからですよ」と、先人たちの思いに感謝の言葉を重ねます。「私は林業家ですが、文化財の保護も同じです。次の世代に伝え残していく。自然や文化財は一度壊れてしまうと元に戻ることはありません。保護するために必要なところは手を加えつつ、自然のまま残すところは、何も触らず残していくことが大切だと思います」

守ると同時に、多くの方にキウス周堤墓群のことを見てほしい、知ってほしいと願う鈴木さん。キウスを訪れた方にどんなところを見てほしいかを聞きました。

「縄文時代の土木技術で、現在まで形が残っている遺跡は珍しい。ぜひ、当時のありのままの姿を見て、縄文人のくらしに触れてほしいですね。そのために見学者が増えても遺跡が壊れないような見学路の整備や発掘された遺物を展示する資料館ができると、より魅力が伝わると思います」と将来への展望を答えてくれました。「自然と共生し、争いのない持続可能な社会が、1万年以上も続いた縄文時代から学ぶことは多いと思います。今回の世界文化遺産登録を機に、千歳特有の魅力を発信していきたいですね」と未来を見据えた目で話してくれました。



キウス周堤墓群周辺のジオラマ(1/200)を制作中

### 千歳文化財保護協会 会長

鈴木 昭廣さん  
Suzuki Akihiro

キウス周堤墓群の枯損木の処理や見回りなど、長年にわたり文化財の保護に従事



ガイド施設ではパンフレットの設置や遺跡を紹介するパネルを展示しています。

「周堤墓は北海道だけに見られる貴重な遺跡です。縄文人の精神文化のよりどころとして、祈りの場所でした。これだけ大規模な土木工事の産物を3200年経つたいまでも地上で見ることができ、貴重な遺跡です」とガイドの井田さんは丁寧に説明してくれました。

周堤墓のことや縄文文化について教えてもらいながら、ウッドチップが敷かれた見学路を奥へ進んでいきます。説明を聞きながら、見学路を巡っていると、30分ほどで入り口に戻ってきました。

「キウス周堤墓群では、土器や石棒が見つかっています」と話す井田さん。実物は、埋蔵文化財センターに展示してあるとお聞きしたので、井田さんとはここで別れし、埋蔵文化財センターに向かいました。センターには10分ほど到着。常設展示室には、キウス周堤墓群を含む市内の遺跡で発掘された埋蔵文化財が約400点、展示してあります。旧石器時代からアイヌ文化期にいたる各時代の多種多様な道具などが展示され、現在につながる人々のストーリーを詳しく学ぶことができます。

キウス周堤墓群の取材をしていると、「どこを見ていいかわからない」という見学者の声を聞くことがあります。確かに、キウス周堤墓群は一見しただけではその価値や魅力がわかりにくいかも知れません。見ただけでは分からない遺跡の価値や保存していく意義についてガイドの皆さんがわかりやすく解説してくれましたので、気軽に見学に訪れてみてはいかがでしょうか。



## キウスを見学 体験レポート

■今回、案内してくれたのは  
キウス周堤墓群ボランティアガイド  
井田 真理子 (いだ まりこ) さん

《キウス周堤墓群》では、ボランティアガイドによる案内やガイド施設を設置し、はじめてキウス周堤墓群を訪れる方にも縄文文化の価値や魅力をわかりやすく伝える取り組みを行っています。世界遺産登録をうけ縄文に興味を持ちはじめた、広報編集者・Kがキウス周堤墓群のガイド付き見学を体験してきました。

### Information

埋蔵文化財センター  
ホームページ

Twitter  
公式アカウント

※センターおよびキウスまでの公共交通機関はありません。

**埋蔵文化財センター**／長都 42-1 (旧長都小中学校)  
見学時間：9時～17時 入場料：無料  
☎(24)4210 ☎(21)9301  
⑤⑩⑪・年末年始はお休み (毎月第2⑩は開室)



▲市環境課が遺跡周辺の植生を調査しています。キウスの森には「オオバユリ」など、約140種の植物が確認されています。



▲見どころのひとつ《2号周堤墓》の前で解説する井田さん。見学の際は歩きやすい服装で虫除け対策も行いましょう。



◀埋蔵文化財センター常設展示室の様子。縄文時代の貝塚や近世の丸木舟など貴重な埋蔵文化財を見ることができます。

## 祝 キウス周堤墓群 世界遺産登録記念 史跡見学会

学芸調査員やボランティアガイドによる見学会を行います。申込の詳細は20ページをご確認ください。

9/25(土) 9:00～12:00  
9/29(木) 9:30～11:40  
10/6(木) 9:30～11:40  
10/16(土) 9:00～12:00

千歳市埋蔵文化財センターで調査・発掘などを行っている和田学芸調査員(左)と茅原学芸調査員(右)

### あ と が き

《千歳の宝・キウス周堤墓群》には、いまなお多くの謎が残されていますが、これらも遺跡を保存しながら価値や魅力を次の世代に伝えていく必要があります。そのため、市民一人一人がどう関わっていくかが問われています。まずは、現地に足を運び、縄文文化にふれてみてはいかがでしょうか。